



船引高校 バスケットボール部

挑戦者 - 第9回 -

Profile：船引高校バスケットボール部

男子部員3年生4人、2年生6人、1年生4人の計14人（うち1人はマネージャー）。全員田村市出身。女子部員3年生4人、2年生2人の計6人（うち1人はマネージャー）。部員数は少ないものの、男女ともに協力し合いながら練習に励む。男子チームは今年、25年ぶりに第68回福島県高等学校体育大会、第75回福島県総合体育大会でベスト16進出（男女総合選手権としては初の快挙）。
◀だるま：現チーム発足時に県ベスト16の願いを込めて、左目に目入れをし、ベスト16を達成した際に右目に目入れした。だるまはOBからの寄贈。



市ホームページでは、選手情報をより詳しく紹介中！ぜひご覧ください。▶▶▶



福島で一番「いいチーム」

新キャプテン #8 鈴木 蒼太

現キャプテン #4 柳沼 蒼生

船引高校の関係者たちが喜びの声をあげたのは今年の5月。第68回福島県高等学校体育大会で船引高校男子バスケットボール部（以下、船高バスケ部）が25年ぶりのベスト16進出を果たしました。

4年前に同部の顧問となった加藤淳也先生は、部員たちと「県大会ベスト16」の目標を掲げ、練習に励むと同時に、普段のあいさつや地域のゴミ拾い活動など、生活態度から見直してきました。目標達成までは、一筋縄ではいかない日々。それぞれが自分と向き合い、時には仲間とぶつかり合いながら強くなるために歩んできました。

チームは代替わりの節目、船高バスケ部として今後も成長し続けるため、現キャプテンの柳沼蒼生さん（3年）と新キャプテンの鈴木蒼太さん（2年）にこれまでの軌跡とこれからのついて話を伺いました。

船高バスケ部の強さ、魅力

蒼生…部活動の時だけではなく、困っている人がいたら迷わず助けるとか、大人数の前でも手を挙げて自分の意見をしっかりと伝えるとか「当たり前前のこと」を意識することでバスケでも体現できるようになったと思います。

船高バスケ部は、みんな個性豊かで一緒にいると安心できる、笑顔になれるチームです。でもやることはちゃんとやる。誰かのために行動ができるし、試合でも自分のやるべきこと・責任を果たすことができます。本気でバスケができる。「福島で一番いいチーム」です。

チームの危機、再起

蒼太…大なり小なりたくさん危機がありました（笑）。印象に残っているのが、昨年の夏に同級生が複数退部してしまって、とても残念で、チーム全体の雰囲気下がってしまいました。その時に、当時の3年生の先輩が引っ張ってくれて、ゆっくりですけど大会

に向けた意識に切り替わって、チームがだんだん良くなっていききました。当時の3年生最後の大会、チームはとてもいい状態だったのですが、コロナの影響で地区予選が中止に。前大会の結果で出場チームが決まり、船高バスケ部は県大会に出場することができなくなりました。先輩たちは不完全燃焼で引退してしまったりから、先輩たちが持ち直してくれたチームのために頑張ろうと思うきっかけになりました。今回のベスト16進出もこの経験が繋がったと思います。

キャプテンとして引き継ぎたいこと、受け継ぐこと

蒼生…正直キャプテンらしくないところもありました。3年間振り返ると自分が一番やらなきゃという責任感を持って取り組むことができて、とてもいい経験になりました。先輩のみんなにも学校生活はもちろん、チームを大切に部活動に取り組んでほしいです。蒼太…先輩たちを目標に、

普段の何気ないあいさつや「福島ナンバーワンのチーム」の思いを受け継ぎ、次の後輩にも引き継いでいきたいです。そして県でベスト8、4と上を目指して、自分たちは「強い」と胸を張っていけるようなチームに成長していきます。



思いを受け継ぎ、さらなる高みへ

選手たちと日々成長 感謝を忘れず次なる目標へ



顧問 加藤 淳也 先生

顧問になった4年前、学校の規模や選手たちの経験を踏まえて「県で1番は厳しくてもベスト16になれる」と伝えました。あわせて「県で一番強いチームは厳しくても、努力すれば県で一番いいチームになれる」と伝えて取り組んできました。おそらく選手たちは半信半疑だったと思います。それから信じてついてきてくれて、やっと県でベスト16になることができ、変な話ですけど、優勝した気分です（笑）。選手たちの一番の特徴で武器だと思うのは、素直であること。言われたことがきちんとできて、諦めずに期待に応えようと努力することができず。普通に考えたら無理だろうという格上の相手に勝ったりできる。

蒼生…一人一人の強いところを出して勝ち切れたことがとても大きなことで、これからの自信につながりました。部活動だけではなく、日常生活でのあいさつや相手への気配りなど徹底してやってきたことが勝利につながったと感じています。蒼太…個々のスキルや強い部分を試合で出すことができたと思います。これまで、惜しいところで負ける試合が多くありましたが、今大会はポジティブな気持ちで絶対勝ると信じて挑みました。チームの雰囲気も今まで以上に良く、自分たちらしさを出すことができた大会になりました。

県ベスト16の快挙

誰が活躍したではなく、全員バスケで一人一人が強みを出し合って勝てることを伝えて、それを疑わずちゃんと練習を積み重ねて勝てるようになったので本当にすごいと思います。誇りです。選手たちも、日々の積み重ねが結果につながることを実感してくれていると思います。現役の選手たちと同じくらい一生懸命やってきた卒業した先輩たちの代から、船高バスケ部はチームとして積み重ねてやってきました。チームとして成熟してきて、少しずつ勝てるようになってきました。代が替わっても新しいことに挑戦しながら、積み重ねること成長を続けてほしいです。顧問として、選手たちに教えているというよりは、日々成長させてもらっていると感じます。卒業した先輩たち、前顧問の先生や学校の職員・事務員の方々の地域の方々などたくさんの方のおかげでここまでこれたことに感謝して次の目標に向かって励んでいきます。